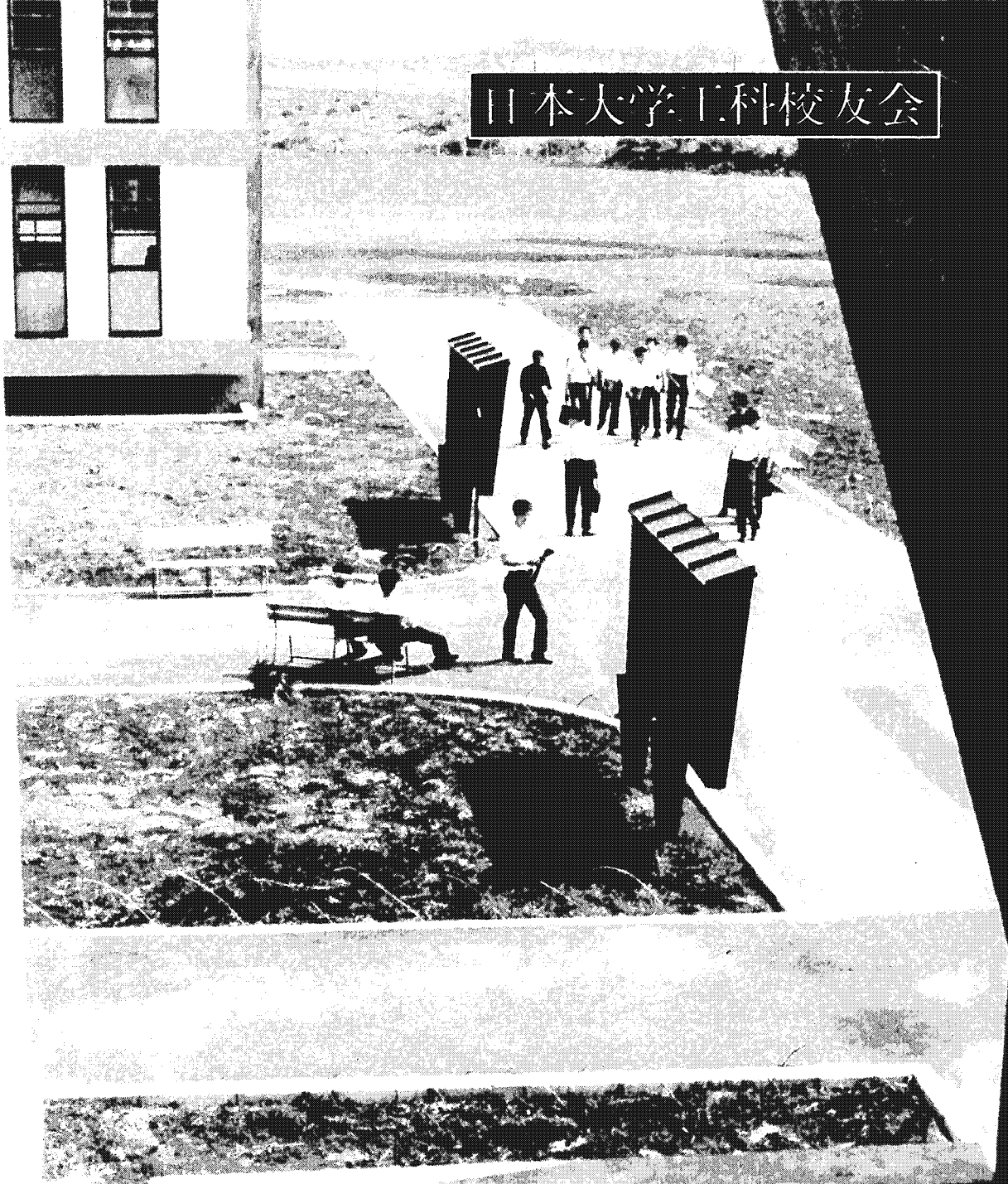


日本大学工科校友会



桜

工

1965-40

桜工

日本大学
工科校友会誌
1965
VoL. 10
No. 40

校友の縦横の 連携をのぞむ



工科校友会
事務局長 高木政司

■校友の縦横の連携をのぞむ／高木政司 …… 4

■技術者の精神／渡辺寛治 …… 6

交通工学科学生への期待

<特集 ばいじん> (上)

■粒子は微細化している／池森亀鶴 …… 9

校友のアンケート …… 14

■オレが学校を出たとき／保坂博・稲村

久造・関慎吾・木村弘文・五十嵐修作

・長谷川三郎・佐藤輝哉・大林第三・

中山隆・服部昭・瀬古新助・伊藤高

■私と日大／鈴木雅次 ……23

■平和への道／松本昌三 ……25

■病関の記(上)／亀井幸次郎 ……26

■土岐義道君を想う／松島俊之 ……34

■昭和40年度校友会総会開く…31／古田日大会頭の

視辞…5 ■支部だより 消防庁支部総会…32 ■会合

だより 専土5 日生30周年同窓準備会…32 ■学友短

信 住所など変更…33 / 校友栄転…33 ■雑記帖 測

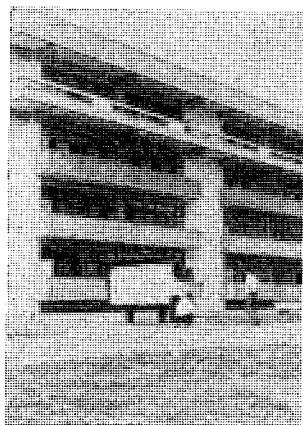
量二題・篠本勝美…35 / アンバランス・山内盛…35

■本年度学術講演会にふるつてご参加を…28

グラビア 建設すすむ習志野校舎・ほか

・表紙は新しい習志野校舎の2号館からの望見。新校舎は成田街道沿いの口大一高グラウンドに隣接し、将来は新京成電鉄の新駅もできるようだ。東京から1時間半の田園である。

右の写真は2号館



日本大学工科が発足してからすでに50年、今日までに工科出身の先輩諸兄が、管々として築き上げた社会、経済、文化のあらゆる部面における高い実績は、じつに血と汗と涙の結晶であったといえよう。

この間、満州事変に引続く長い戦争、敗戦、戦後の混乱に揉まれながら、もろもろの困難を克服し、革新技術を積極的にとり入れ、新しい分野を開拓しながら、さらに前進を続けている。

もちろん、学校当局ならびに諸先生の深い理解と支援、恩恵が絶えまなく続けられ、それが校友の今日の繁栄を支えた大きな力になったことはいうまでもなく、卒業生一同は深く感謝しているわけである。

とくに古田会頭は、太平洋戦争中東京が猛爆にさらされている時、駿河台の工学部校舎内に起居し、不自由な寝食に耐えながら、工学部の保全に身を挺してくださった。もし古田会頭の陣頭指揮による必至の防護がなく、由緒ある駿河台の校舎が灰塵に帰していたら、工学部は再起不能となり、今日の理工学部の大盛ちはあり得なかっただろう。私たちは古田会頭のこの労苦を忘れることができない。

さて校友は、前記のように日々前進しているが、私がここで一言したいのは、わが日大工科出身の校友は、科のいかんを問わず「和」の心で、縦横の連携協力を強め、校友ひいては理工学部に、さらに明るい将来が約束されるように努めていただきたい、ということである。科学技術者というものは、とかくかたくなになりがちで政治性に乏しい、というのが世間の評である。逆にいえば政治性に乏しいことが、その技術面にプラスしているといってもいいだろう。

しかし考えてみると、大正11年の春以来、卒業

建設すすむ習志野校舎

日本大学が船橋市習志野町の広々とした12万坪の土地に建設中の理・工系習志野校舎は、すでに教養1号館同2号館が竣工、いま同3号館の工事が急がれているが、さらに明春完工をめざして、精密機械工学・交通工学専用校舎と、いま2号館の地下におかれている食堂を別棟で建て、運動施設（野球場、グラウンド、道場）部室も新設する。



仮正門からみた2号館と建設中の3号館

夏草の生い茂る広い土地に新学園が誕生する



桜工第40号

■昭和40年6月25日印刷／30日発行

■編集兼発行人／高本政司

■発行／日本大学工科校友会（東京都千代田区神田駿河台1の8／電話：東京293—3251内線206／振替・東京162710）

■印刷／本文・鉄鋼新聞社印刷部，グラフィア・和喜グラフィア

■会誌委員／委員長菅原要（建築）／土木・下青木秀吉，篠本勝美／建築・安藤三郎，／機械・大内順，青木頭一郎／電気・篠原博，高橋信夫／化学・大塚喜作，大内藩／経工・清水潤／薬学・山内盛